

家庭教育支援チームの在り方に関する検討委員会（第2回）
議事次第

- 1 日時 平成25年12月2日（月）9：30～12：00
- 2 場所 文部科学省 生涯学習政策局会議室（東館9階）
- 3 議題 「家庭教育支援チームの役割・課題について」
- 4 議事次第
 - （1）家庭教育支援チームの取組についての事例発表
 - 菊池委員（「こもんず」の取組）
 - 川口委員（「とらいあんぐる」の取組）
 - 向井委員（「泉大津市訪問型家庭教育支援事業」の取組）
 - （2）討議
- 5 配付資料
 - 資料1 第1回検討委員会議事概要
 - 資料2 菊池委員発表資料
 - 資料3 川口委員発表資料
 - 資料4 向井委員発表資料
 - 資料5 家庭教育支援チームの役割・課題についての論点（案）
 - 資料6 家庭教育支援チームの映像資料について

机上配布

- ・家庭教育情報誌 すまいる(川口委員配付資料)
- ・検討委員会配付資料(ドッジファイル)
- ・報告書 つながりが創る豊かな家庭教育
- ・教育振興基本計画
- ・パンフレット

家庭教育支チームの在り方に関する検討委員会（第 1 回）議事概要

1 日時

平成 25 年 9 月 25 日（水曜日）10 時 00 分～12 時 00 分

2 場所

文部科学省生涯学習政策局会議室

3 委員出席者（敬称略）

相川良子、川口厚之、菊池まり、西郷泰之、鈴木みゆき、松浦善満、松田恵示、水野達朗、向井説行、山野則子

4 文部科学省出席者

藤江男女共同参画学習課長、坂本家庭教育支援室長、西村家庭教育支援室室長補佐

5 議事概要

（1）議事の公開について、資料 4 のとおり決定された。座長に山野委員が選出され、座長代理に松田委員が指名された。

（2）藤江男女共同参画学習課長挨拶

（3）坂本家庭教育支援室長より、資料 1（設置要綱）、3（スケジュール）、5（家庭教育支援チームにおける現状と課題について）、6（主な論点(案)）について説明の後、意見交換が行われた。

（委員の主な意見）

当事者との近さや、専門家ではないメリットがあり、チーム員が一様に専門化していくことは違うのではないか。また学校や児童相談所などと繋がるだけでなく、どう繋がっているかが見えないと機能しない。チームの効果についてもサロンのだったり、発見・予防も含んだ支援をしているため効果が見せにくいことを証明していくことが必要。

伴走型支援を行っているが、そういう役割の人をチームに入れると繋がりがいいのではないか。専門家と非専門家で役割分担ができるチームであれば、参画する人の敷居が低くなる。またチームを中心として、学校、地域、関係機関でこそできることが話し合われるためのフラットな協議会を作っておけば、常に情報交換できる。

孤立傾向にある保護者は、講座を開いても来てくれないので、こちらから行くしかない。繋がりを築いておくことでトラブルの際には、学校に言えない本音を言ってくれて、対応できるケースもある。ただ、当初はいきなり訪問したので苦労した。情報誌を作って町として配る広報に入れてもらい、公のものとして取り扱われたことが信頼関係に繋がりを、受け入れもうまく進んできた。

チームと教育委員会の関係性については、教育委員会からの事業として委託されているため、地域の活動だが、教育委員会が活動の後ろ盾になっている。公的な支援というものの大きさ・成果を感じている。今後は講座に出たような保護者の方々が活動を支えていく仕組みをどう作っていけるかということが課題。

ブレア政権時に民間の活動プログラムなどについて、お墨付きを与えて推奨する取組があった。全て行政がやるのではなく、民間の持っているノウハウも活用する。チームについては、専門家集団との間を取り持つコーディネート機能を持っていないと、連携がうまくいかなくなってしまう。また家庭に入っていくことは、意義がある反面、入り方によって危険性が伴うこともあるので、どう効果と安全性を担保していくのが課題。

チームを作る中で、専門家でない、あるいは当事者の保護者がまた次の作り手になっていくことも大切な要素。また生活習慣に関しては、関係省庁が一所懸命やっていたという感覚はあるが、末端の教育委員会まではつながりにくいというのが地域の課題。

色々な課題を抱えた生徒達にとっては逆に、家庭が孤立化・孤独化していく傾向にもあり、本チームは学校教育にとっても重要な役割を持っている。またチームの性格付けが出来ればいいのではないかと。専門家ではないが中間的な人々がチームの資源として位置付けられ、専門家と地域とがつながり成熟化されていく。そういった中間的な人たちをどう育て活用していくのが課題。

子育てに関わって親自身も成長していくという広い意味での教育観をとれば、家庭教育支援はユニバーサルな面も抱えるべき問題。ターゲット的な活動とユニバーサル的な活動とのバランス、複眼性が、国の施策として重要。また青年期の家庭教育の問題については、退学して行政からも届かない位置の子供たちへの対応をチームの中でどう位置付けるのか、位置付けられるのかということも含めて課題。

一度不登校になると、再度動き出すのが難しい。伴走型支援をシステムズアプローチと併用した上で、アウトリーチの人間が進めていくのが効果的ではないか。またチーム支援のメリットは情報共有だが多様な人が集まるため、手法が分かれてしまうこともあ

るので、何かあった際に立ち戻るためのクレドを、しっかり作っておく必要がある。

第三者であること、カウンセリング技術、地域の方なので、教員が動けない時間にも動けるとというのがチームの特徴。今後の課題としては、男性のサポーターも欲しいことと、勉強する機会が少なく福祉的な支援を行う知識をあまり持っていないこと。

教員の養成課程に社会福祉がない。教育心理等は教えられるが、社会福祉、児童福祉は教えられず教員になるため、担任になって虐待ケースに出くわし、5月に休職に入ってしまう教員もいる。

発達段階で途切れない家庭教育支援と言いながらも、青少年期の問題はきちっと浮上しない。ネット依存やゲームなど生活習慣の問題について、今一番問題を抱えているのではないか。

アウトリーチとはノンボランティアな、意識がない人に出向いていく支援。非専門職で簡単にできることではないが、逆に、非専門職だからできることもあるといった、大きな枠組みで、その意義なども整理したい。

(以上)

つながりの場づくりと つながるしくみづくり

家庭教育支援チームこもんずのとりくみ



平成20年「地域における家庭教育支援基盤形成事業でスタート

こもんず commons

共同体では地域の共commonsで人と人が関わり合うことを通じて 互いの暮らしを支え合ってきたといいます。

そのようにたくさんの関係をつなぎ、紡ぐ場をつくりたいという

願いを込めました。

シンボルマーク

「つながる」をイメージして小学校5年生の作品を原案に作成。かわいらしく温かな雰囲気マークで、こもんずをしてもらい地域のみんなで活動を築きあげていきたいというチームの思いを支えています。

千葉県稲毛区小中台中学校区
家庭教育支援チームこもんず

2013.12.2

地図



小中台中学校区の紹介

- * 千葉市稲毛区の西部
- * 人口約3万人
- * 東京へ通勤する人のベッドタウンであり、一部では農村地帯の名残りもとどめる
- * JR稲毛駅周辺は商店街
- * 公立の2小学校1中学校
(いずれも800名程度)
高等学校2校
私立幼稚園3園
保育園保育所
- * 公民館、図書館
- * 住民が代々住んでいる地域もあるが、各地からの転入世帯の多い地域も多い

子育て家庭の状況

- * 3世代家族も一部ではあるが、核家族、転居家族が多く、周りの人との繋がりが薄いと感じている。
- * 親の孤立感、子育ての悩みを共有できる人が少ないのは子どもの年齢によらず全体にうかがえる。
- * 子どもが遊び回れるような環境が乏しい。
- * 子どもや子育て家庭に関わる地域の活動は従来から様々な団体が行っている

子ども・子育て家庭をめぐる地域の状況



家庭教育支援チーム<こもんず>の 組織と活動

地域住民・保護者

全ての家庭につながる支援

相談活動

子育て井戸端会議
(グループ
カウンセリング)
こもんずカフェ
(個別相談・
H24年度より)

子育て・親育ち 講座

学習機会の提供
* 小中学校、
幼稚園、保育所
* 公民館と共催
で実施
地域人材の活用

地域の人材育成

* 千葉市
子育てサポーター
スキルアップ講座
養成研修

広報紙の作成

保護者、公民館、
地域団体等に
配布

支援チーム会議
定例月1回、
拠点である園生小学校内
「こもんず室」にて開催

地域ネットワークづく り

子育て、教育、福祉にか
かわる地域の団体の
ネットワーク化
* 地域家庭教育
フォーラム
* 地域情報収集

家庭教育支援チーム <こもんず>

子育てサポーター、臨床心理士、保育士
民生・児童委員、主任児童委員、
PTA関係者

平成20年度より活動

地域協力者会 議

学校・幼稚園・保育所
PTA・公民館
保健センター
青少年育成委員会

こもんずの取り組み～

「つながりの場づくり」 1

< 子育て井戸端会議(グループカウンセリング) >

ワークショップ型

自分自身を知ろう /
気持ちの受け止め方と伝え方 /

ミニ講座セット型

寄せ植え / 親子で工作 /
弁当作り / 女の子の下着の選び方 /
絵本セラピー / …

PTA、公民館、保健センター、
企業の出張講座、まちの花屋さん
地域のボランティア等とコラボも

4つの約束

- 1) 話されたことは外には出さない
- 2) 話している時、非難・批判しない
- 3) 話は最後まで聴く
- 4) 話さなくてよい自由がある

個別相談の要望への対応

< こもんずカフェの設置 >

地域の専門相談員の協力 /
専門機関(保健センターなど)との連携

参加者同士のつながり
新しい人間関係が生まれる
喜びや期待感!

井戸端会議でもファシテーター
は大切な役割

参加者が地域の核に
なっていく仕組みづくり



こもんずの取り組み～ 「つながりの場づくり」 2

子育て家庭をとりまく「地域」において、
共に子どもや子育てにかかわる関係づくり

地域家庭フォーラム

地域の教育力とは…

家庭や地域の「環境」をより
よくしようという思いと実践
子育てをテーマに顔の見える
つながり

『地域で子育てを支えるー
いま、わたしたちにできること』
『こどもにだって3rdプレイス
(環境・居場所の検証)』



さまざまな立場
の人と話す機会。
あそべる場の確
保は家庭教育支
援・地域ももっ
と検討を！

企画で連携

地域資源の活用(講師や企画)
PTAとの連携
公民館との連携

地域協力者会議

チームの活動や役割を
支える会議
子どもや子育て家庭の
状況や各団体の取り組
みについて率直な意見
交換、情報共有。

教育・保健福祉現場の
連携

家庭教育支援チーム つながるしくみづくりの成果と課題

5年間の活動を振り返って...

家庭、地域の教育力とは何か・・・を伝える

- 子どもの育ちに「環境」は非常に大きな影響を及ぼす。
その『環境』こそ「教育力」の源泉であり、
地域を構成する人々(団体)が「環境」をよりよくしよう
という思いや実践が家庭、地域の教育力

「基盤形成」とは地域につながりをつくること・・・の実践

- 地域団体、機関、人材の顔のみえる場の設定

コーディネート組織の必要性を伝える

- 多様な場の設定の設定ができ、既存組織とも等距離'
あるコーディネート組織の役割を共通理解

地域主導でも公的な支援

- コーディネート機能への信頼と協力が可能になる



こもんずの考えるチームの役割と今後の課題

チームの組織

- 地域の様々な役割を持つスタッフと臨床心理士などの専門家によるチーム構成を継続していけるしくみ

活動を担うスタッフの養成、確保

拠点の役割の検討

- アウトリーチに向けて 地域プロファイリングを活動に生かしていく
すべての家庭への支援になっているか の 検証



こもんず

秋号 VOL.18

2013年11月1日発行

「こもんず?まだどんな団体かわからない!」そんな方も多いのでは。こもんずでは、①子育て親育ち講座(学習機会の提供)②子育て井戸端会議&こもんずカフェ(相談活動)③地域のネットワークづくり④広報紙作成等の活動を通して、家庭教育を支援するチームです。企画講座など気軽に参加し「こもんず」を体感して下さい。

☆9月の活動報告☆

子育て井戸端会議「絵本セラピー」

講師 鶴岡敦子さん(絵本セラピスト) 9/9 実施



参加者 十七名(内子ども三名)

絵本を通して自分の気持ちに寄り添い絵本のチカラ・癒しを感じながら楽しい時間を過ごしました。参加者は互いに愛称で呼び合い、あっちゃん(講師)の絵本読み聞かせ後、様々な意見を出し合いさらに読み込んでいきました。



参加者の声

私も大事、相手はもっと大事、相手の立場で考え同じ目線で見られるようになります。私自身が笑顔でいつも元気で過ごせるように頑張りたいです。あっちゃん、ありがとう♡



子育て親育ち講座「どう伝える?性の話」

講師 水谷麻未さん(子育て支援保育士) 9/30 実施



参加者 二十名
(託児 十一名)

水谷先生からひと言

「赤ちゃんはどこから?」と聞かれたことはありませんか?

心を生きていくための教育が、



「性教育」です。科学的にシンプルに伝えることが、大切です。自己肯定感が低い日本の子ども達。あなたらしく、心も身体も健やかに育ててほしい。性について分かりやすく書かれた絵本がたくさんあります。話しにくい事もまずは、一緒に読んでみましょう。防犯の意味からも大切なテーマです。小さい頃

から始めることで、思春期にも繋がって行きます。

親子で気軽に話せるきっかけ作りになればと、願います。

当日の託児の様子



編集・発行 家庭教育支援チーム「こもんず」

事務局 千葉市稲毛区小仲台9-30-1 園生小学校内
FAX 043-284-4971「こもんず」宛て明記
E-mail konakadaicommons@yahoo.co.jp
HP <http://commons.exblog.jp/>



広報紙は、年4回発行し、小中台小学校・園生小学校・小中台中学校の3校と地域の育成委員会・民児協・自治会等に配布しています。こもんずの活動を知って頂き、地域で共に活動して頂ける方々と繋がっていただければと思います。ご感想・ご意見等お待ちしております。



「こもんず☆カフェ」 …毎月行います…

ちょっとした悩みを、相談のプロがお聴きします

学校生活、勉強、友達関係、ゲーム、携帯、子どもとの関わり方など子育て中は悩みが尽きません。ちょっと誰かに聞いてみたり話してみると、気持ちが軽くなることも…

相談のプロと子育てに関する悩みを一对一でゆっくり安心して話すことができます。毎月3組ずつ、11月からの予約を受け付けています。どうぞお気軽にお申し込みください。

まずはメールでお申し込みを。相談員の先生と気軽に話してみましょ。

日 時 11月 13日(水) 13~16時 相談員/角田啓子(臨床心理士)

12月 3日(火) 13~16時 相談員/水谷麻未(子育て支援保育士)

1月 27日(月) 9~12時 相談員/水谷麻未(子育て支援保育士)

会 場 小中台公民館

申し込み E-mail konakadaicommons@yahoo.co.jp

TEL 090-7707-2175 (こもんず代表・菊池まり)

※お名前・ご連絡先・希望日時をお知らせ下さい。日程等決まり次第、折り返しご連絡いたします。

企画予定

《★印の企画は後日チラシを配布いたします》

子育て親育ち講座

・小中台小学校就学時健診講座 対象：就学児の保護者 <11/8>

・園生小学校就学時健診講座 対象：就学児の保護者 <11/11>

★小中台公民館共催講座「楽しく学ぶアートセラピー」11/19(火)10時~

★思春期講座 対象：小学生・中学生の保護者 30名

日時：11/27(水)13時~15時 場所：小中台公民館研修室

講師：中野 晃男 先生(日本共創カウンセリング協会理事長)

高等学校等で45年にわたり、ひきこもり・不登校の臨床的研究に従事・実践されています。

内容：講演「保護者のための思春期生活Q&A」と質疑応答

子育て井戸端会議

・「寄せ植え講座」 対象：小中台小 園芸サークル 11/21(木)

★「ドミノで遊ぼう」 対象：小学生と保護者 20組

日時：12/7(土)13時~15時 場所：小中台公民館講堂

★地域家庭教育フォーラム

日時：平成26年1/25(土)14時~16時 場所：小中台公民館講堂

内容：基調講演(明石要一先生)と参加者のグループワーク

対象：小中台中学校区在住者・地域での家庭教育支援に興味のある方

小中台中学校区の子育てサークル、PTA、放課後子ども教室、こどもカフェ、青少年育成委員会、青少年関係団体等



地域情報

【ドミノで遊ぼう・・・こどもの居場所づくりに取り組む地域の団体(アネモネ・子ども応援し隊)が毎月第2日曜の1時から4時まで小中台地域福祉交流館ロビーで開催。こども参画のドミノ大会も年1回実施。】